

## 令和元年第9回函館市教育委員会定例会 会議録

- 1 日 時 令和元年（2019年）9月25日（水） 午後4時30分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者 辻教育長，藤井委員，小葉松委員，須田委員，青田委員
- 4 欠席者
- 5 事務局 堀田生涯学習部長，松田学校教育部長，吉本生涯学習部次長，  
佐藤生涯学習部次長，佐賀井教育政策推進室長，東出管理課長，  
大室教育政策課長
- 6 傍聴者 0人
- 7 付議事項
- 日程第1 報告事項 教職員の懲戒処分内申の結果について
- 日程第2 議案第1号 博物館協議会委員の解嘱に関し，議決を求めることについて
- 議案第2号 博物館協議会委員の委嘱に関し，議決を求めることについて
- 日程第3 議案第3号 令和元年度教育委員会の事務の点検および評価報告書(案)  
の決定に関し，議決を求めることについて

### ■辻教育長

- 開会宣言 午後4時30分
- 議事録署名人に，藤井委員，小葉松委員を選任。
- 本日の日程のうち，日程第1，報告事項「教職員の懲戒処分内申の結果について」を「秘密会」としたいが，いかがか。
- 異議がないので，秘密会とさせていただきます。
- それでは，日程第1，報告事項「教職員の懲戒処分内申の結果について」報告を求める。

(秘密会につき，会議録省略)

### ■辻教育長

- これで報告事項を終了する。

- 次に、日程第2、議案第1号「博物館協議会委員の解嘱に関し、議決を求めることについて」および議案第2号「博物館協議会委員の委嘱に関し、議決を求めることについて」を一括諮る。

#### ■生涯学習部長

- 議案第1号および議案第2号の2件について、順次、説明する。まず、議案第1号「博物館協議会委員の解嘱に関し、議決を求めることについて」であるが、本人からの辞任の申し出により池上てるみ氏を令和元年9月25日をもって解嘱しようとするものである。続いて、議案第2号「博物館協議会委員の委嘱に関し、議決を求めることについて」であるが、解嘱される委員の後任として、風間美智子氏を本日から前任者の残任期間である令和2年2月21日まで委嘱しようとするものである。なお、参考として、机上に委員の名簿を配付している。

#### ■辻教育長

- 議案第1号および議案第2号について、何かあるか。

(意見なし)

#### ■辻教育長

- 議案第1号および議案第2号については、原案のとおり決定する。
- 次に、日程第3、議案第3号「令和元年度教育委員会の事務の点検および評価報告書(案)の決定に関し、議決を求めることについて」を諮る。

#### ■学校教育部長

- 議案第3号「令和元年度 教育委員会の事務の点検および評価報告書(案)の決定に関し、議決を求めることについて」説明する。このたびの教育委員会の事務の点検・評価については、8月19日付けで函館市教育振興審議会からの答申を受けたことから、点検・評価の結果と併せて報告書の最終案として取りまとめたところである。本日は、その決定に関して議決をいただくとするものである。なお、函館市教育振興審議会からの答申については、第22回教育委員会臨時会においても報告したところであるが、報告書(案)の170ページ以降に掲載している。また、今後の予定については、本日、議決を得た後、全市議会議員に報告書を配付するとともに、教育委員会ホームページへ掲載するなど

評価結果を市民へ公表したいと考えている。

■辻教育長

- 議案第3号について、何かあるか。

■須田委員

- 87ページの「はこだて子どもサポートシートの活用の推進」のところであるが、評価が「課題が多くある」となっているが、何か問題があったのか。

■辻教育長

- はこだて子どもサポートシートというのは、特別支援教育でいうところの個別の教育支援計画の函館市での呼び名である。課題が多くあるということの理由については、「本取組については、通常の学級での作成・活用や進学時の引継ぎ等での活用が十分ではないなどの課題が多く見られる」と記述されているが、この部分について説明はあるか。

■教育政策課長

- 「課題が多くある」というところについては、△が付くところのような表記になるものである。

■須田委員

- 具体的に何か問題があったのか。

■教育政策課長

- 「課題が多くある」という評価の理由が、87ページの下に記載されているとおり、「通常の学級での作成・活用や進学時の引継ぎ等での活用が十分ではない」ということである。

■須田委員

- 活用できていないということに対しての課題が多くあるということか。

■教育政策課長

- そのとおりである。

■辻教育長

- 特別支援学級の子どもについては、ある程度作成されていて引継ぎにも活用されているが、通常の学級に所属している軽い障がいのある子どもについては、なかなか作成が進まないということではないか。

■教育政策課長

- そのとおりである。特別支援学級については作成が義務づけられてるが、通常の学級については義務付けはない。これを作成することによってより良い指導に活かすことができるので活用してくださいというスタンスで行っているので、なかなか十分に活用が図られていないということだと思われる。

■辻教育長

- あとは、個別の教育支援計画というのは、保護者の了解がないと作成できない。通常の学級にいるということは、なかなか障がいというものを受容できていない保護者もいるはずなので、「必要ありません」「作成しません」というケースもあるのかもしれない。しかし、須田委員が引っかけたのは、「課題が多くある」という、随分反省しているなどいうところであると思う。

■須田委員

- そうである。今の話を聞くと、そこまでの評価になるのかという感じはする。

■教育政策課長

- 担当課の方にも今の話を伝えて、より良い評価となるよう、次年度は「ある程度の成果が得られている」というところ位までは頑張りたいと思う。今年は初めてこの方式で評価を行ったことから、それぞれで開きがあるかもしれない。

■辻教育長

- 若干ぎこちないところがあるかもしれない。

#### ■学校教育部長

- 最初の段階で、評価の◎・○・△の表現を一度決めてあったので、この表現をそのまま使わせてもらった。来年度に向けては、この文言についても十分に伝わるよう精査していきたい。

#### ■教育政策課長

- 8ページにそれぞれの評価に関する文言について記載がある。△については、「遅れている」「成果が不十分で、改善の必要がある」「課題が多くある」としており、担当課において「課題が多くある」としたものである。

#### ■小葉松委員

- 43ページの「安全・安心な学校給食の提供」という事業に関して、「課題が多くある」という評価はこれだと思うが、成果と課題のところに食中毒事故1件、危険異物混入7件と書いてあるが、一番の大きな大事件、給食室の火災事故は記載しなくてもよいのか。安心・安全のところ、給食室からあのようなことが起きて、全校生徒が避難したというのは、昨年度のことではないか。それに関して何も記載しないで評価してしまっているのかと思った。

#### ■教育政策課長

- 報告書案の記述を取りまとめたのが本年2月段階であったため、抜け落ちてしまった。確認して修正したい。

#### ■小葉松委員

- 昨年度なので、3月31日で締めるということで間違いないか。そうすると、前年度の給食関係の一番の問題点はあの事故だったのではないかと私は思っている。

#### ■辻教育長

- 追加する方向で検討したい。あくまでも報告書案であるので。作業上の時系列の問題である。綴じ込みや印刷等のスケジュールの関係で、あの事故が発生する前に締め切ってし

まったのではないか。

■教育政策課長

○ はい。

■小葉松委員

○ それは少しまずいのではないか。次年度の報告書に記載するのであればいいが、次年度に載せる方がもっと嫌だろう。安心・安全ということでは、一番の問題だったと私は思うので。

■教育政策課長

○ 記載を追加することとしたい。

■辻教育長

○ 他にはいかがか。

■小葉松委員

○ 59ページで、「不登校対策事業の推進」である。この中に「不登校児童生徒は増加しており」という記載があり、不登校の増加、あともう1点生徒数が減少しているにもかかわらず増加しているという現状を踏まえて、「ある程度の成果が得られている」、○という評価は当事者が見ると違和感を感じると思う。○を△にしろとは言わないが、現実問題としては、不登校は減っておらず増加しているのが実情だと思うので、評価を考えるにあたってはもう少し慎重に行った方が良く私は思う。

■辻教育長

○ 確かにそのとおりである。来年度は少し具体的な取組も考えているので、その関係でも課題があるということで触れた方がよい。

■須田委員

- 不登校の関係では、以前に函館市の場合はあまり増えていないというデータをいただいた気がするが、今は増えているのか。全国的にはものすごい勢いで増えているが、函館市の場合はあまり増えていないという資料を1年位前にいただいた記憶がある。

■教育政策課長

- 確認させていただく。

■辻教育長

- 文部科学省が基準を作っている30日以上不登校を理由にというデータと、最近は何日間か連続して休んだらカウントするとか、色々と異なるデータがある。

■学校教育部長

- あとは1,000人に対して何人というデータもある。

■辻教育長

- 発生率とか。違う視点で資料の提供があったのかもしれない。文部科学省の通知以来、やや学校に来ない子どもは増えている。

■青田委員

- 隠れ不登校という問題もあると思う。

■辻教育長

- そうである。この点は事務局で必要なデータを調べて対応して欲しい。他はいかがか。

■須田委員

- スクール・ソーシャル・ワーカーの記載はどこかにあるか。

■学校教育部長

- スクール・ソーシャル・ワーカーは今年から実施なので、まだ記載はない。

■ 辻教育長

- 大きく書式を変えたので、オープンになれば、いろいろな方からの声も寄せられる可能性があるので、また改善できるものは改善していく必要がある。また、お気づきのことがあれば、折々言っていただいて、この場はこれで決定したいと思う。

■ 辻教育長

- それでは若干の文言の修正は行うが、大きなところで原案のとおり決定する。

■ 終了宣言

- 午後5時30分

議事録署名人 藤 井 壽 夫

〃 小葉松 洋 子

調製者庶務係 土 田 和 宏